

一栄谷の 私見 異見



農林水産大臣に農政
通で現場に精通した野
村参議院議員が就任し
たことも手伝ってか、
食料安全保障をめぐる
議論はよりにきやかさ
を増しつつあるように
も感じられる。

野村農相は新聞サイ
ンタビューで、食料価
格の高騰にもない、
「食の基本になる麦や
大豆、こうしたものが
(国産は)非常に不
足している」と述べ、
麦・大豆増産に政策を
集中していくことを強
調している。今回は、
これはこれで必要であ
り、重要な対応である
と受け止めていること
を前提にした話であ
る。

8月18日の農政シャ
ーナリストの会で、福
島大学の生瀬寺真二食
農学類長が語っていた
が、日本ではフード
セキュリティを「食
料安全保障」と訳して
西者が同意語として使
われているが、本来、
食料安全保障はフード
セキュリティの一部を
占める限定的な概念に
とらまる。すなわちフ
ードセキュリティは、
99.6年の世界食料サ
ミットで合意され、そ
の後、一部追加され、
「すべての人々がいか
なる時にも、活動的で
健康な生活に必要な食
生活のニーズと嗜好を

満たすため、十分に
安全で、栄養のある食
料が物理的・社会的・
経済的に入手可能な
きに確保される「もの
として定義づけられ
ているという。国際的
には、フードセキュリ
ティは貧困問題等も含
めた広い概念として使
われており、不測の緊
急事態に対応する食料
安全保障については限

水田は国の基、 都市農地は国の宝

定的に議論されている
ものと類推される。
ここで強調しておき
たいのは、限定的な意
味での食料安全保障を
確立していくこと、
包括的概念としてのフ
ードセキュリティとの
整合性を持つての議論
の必要性である。ま
ず、限定的な意味での
食料安全保障、例えは
シーレーンが破壊さ
れ、食料の輸入が途絶
した事態、あるいは国
内が戦場化した際に
必須とされるのは、自
然・風土に対応して持

続的であり、栄養価も
高く保存性にも優れた
米の確保が最優先であ
り、このための水田の
維持・確保である。こ
れを軸にしたうえで包
括的概念としてのフー
ドセキュリティのあり
方、中身を整理し、整
合性のとれた政策を講
じていくことが必要な
のではないかと。もち
ろろ言えば、「食料安全保
障」について議論され
ながら、水田農業の重
要性や日本型食生活を
はしめとする真のあり
方についての議論が欠
落したままの「食料
安全保障」論議では不
十分。単に現状、価格
が高騰している麦大豆
増産に政策を集中すれ
ばいい、ということでは
ないのではなからう
か。

これに関連して述べ
ておきたいのが、都市
農地の保全である。不
測の事態には農産物の
輸送もままならず、身
近なところでの調達を
余儀なくされることは
必至である。こうした
時に都市農地を利用で
きるよう確保しておく
ことが重要である。目
下、生産緑地制度でか
ろろして都市農地は守
られてはいる。生産緑
地指定から30年が経過
し、指定解除が懸念さ
れた2022年問題は
10年の延長が可能とな
り、また都市農地の買
収も可能にはなったも
の、このままでは永
続的に生産緑地を維持
していくことは困難で
ある。都市農地を永続
的に維持可能にしてい
く方を協議し、対策
を講じていくことも食
料安全保障の大課題
だ。(農的社会サイエ
ンス研究所代表)